

諏訪の景気動向

平成27年8月

(平成27年 7月末 D・I調査)

平成27年8月 28日

岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

諏訪地方の景気動向（平成 27 年 7 月末調査）

「平成 27 年 7 月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

【概況】 諏訪地方 211 社のご協力を得て行った平成 27 年 7 月末の「景気動向調査(DI調査)」では、回答全社の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは 10.4 となり、前回調査時(平成 27 年 4 月末、以下同)の 7.8 から、2.6 ポイント改善した。製造業の業況判断DIは 6.2 で、前回の 6.6 から 0.4 ポイント悪化した。また、非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の同DIは 19.7 と前回の 10.8 から改善した。一方、「3ヶ月後」の業況予想DIは製造業が 5.5(前回 5.1)、非製造業は 10.6(前回 7.7)と、前回よりやや好転予想が増えている。回答全社でも 7.1(前回 5.9)となった。

個々の企業によって経営環境に違いがあるものの、総体的に緩やかな改善傾向となる中で、今回は多くの業種で、経営上の課題の上位に「労働力の確保」が上がっている。

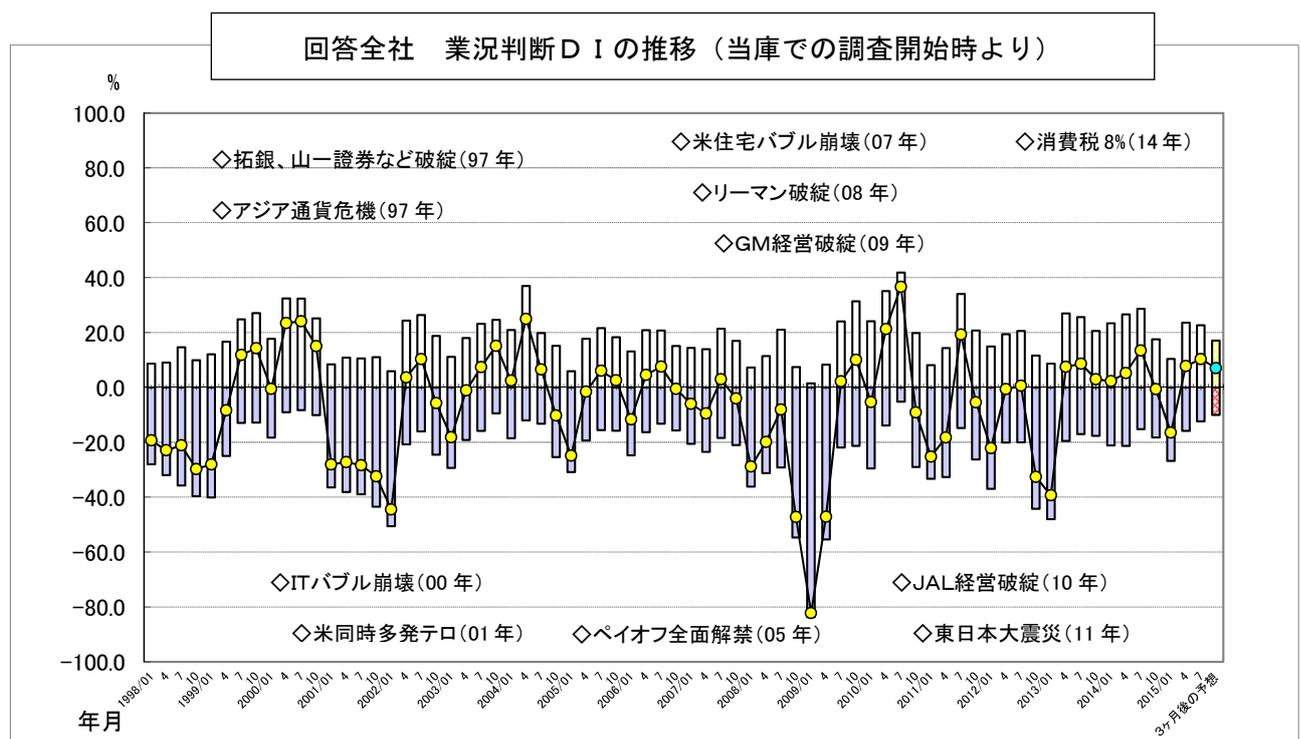
製造業の業況判断DIは、「3ヶ月前」比で 6.2 と前回調査時の 6.6 からやや悪化し、「前年同期」比も 9.6 で、前回の 15.2 から悪化した。「3ヶ月後」の予想は 5.5 で前回の 5.1 よりやや改善した。受注状況DIは「3ヶ月前」比で 5.5 と前回の 3.6 から改善したものの、「前年同期」比は前回の 14.5 から 9.0 へ悪化し、「3ヶ月後」の予想も前回の 1.5 から 0.0 へ悪化している。また、収益性DIは「3ヶ月前」比が前回の△3.6から△1.4と改善したが、「前年同期」比は△5.1 から△6.9 へと悪化した。ただ、「3ヶ月後」の予想は前回の△5.0 から 0.7 と改善し、やや好転予想が多くなった。円安による原材料高などで費用負担の上昇を感じる企業は、前年同期に比べ 42.1%(前回 44.2%)を占め、「3ヶ月前」との比較でも 29.0%(前回 26.8%)で、相変わらず原材料高を経営上の課題とする企業は多い。「3ヶ月後」は、費用負担の上昇を予想する企業は 15.2%(前回 22.5%)とやや減少している。

商業は、消費増税の駆け込み需要の影響を強く受けていた前年同期に比べて、業況判断DIは 12.5 で、前回の 6.1 から改善している。来店客数DIは△3.2と前回の△6.0より改善しているものの、依然水面下で、食料品などの値上がりもあり節約志向が続いている。「3ヶ月後」の業況予想DIは 3.2 で、「好転」と「悪化」予想が同数だった前回の 0.0 からやや改善した。収益性予想DIも 3.1 で、前回(△3.0)より好転予想の企業が増えている。消費増税の影響はなくなったとする企業もあるが、「3ヶ月前」に比べ「多大」とする企業は、前回とほぼ同率の 18.8%で、影響が根強く残っている。自動車販売は、諏訪地方の 7 月の車庫証明件数(軽自動車除く)が 991 件で、前年同月比では 35 件増加(3.7%)し、平成 27 年 4 月以降、4ヶ月連続で前年を上回っている。

観光・サービス業は、夏の観光シーズンのピークを迎え、「3ヶ月前」と比べ、業況判断DIは 68.8 と、前回調査時の 40.0 から改善した。宿泊客数DIも改善し、客単価DIは前回の 20.0 から 43.7 へ改善した。気温の上昇とともに、各地の観光地の入り込みが増加した。「前年同期比」では、宿泊客数DIが前回の 6.7 から 25.0 へ改善した。業況判断DIも△6.7 から 18.8 へと改善している。ただ、仕入れ材料などの費用負担は 75%の企業(前回 60%)が前年より上昇したとしている。「3ヶ月後」は季節要因もあり、業況予想DIが 18.7 でプラス水準ではあるものの、前回より悪化し、宿泊客数予想DIは△6.3 で「悪化」が「好転」を上回り、客単価予想DIも△6.2 と前回の 40.0 から悪化している。

建設業の業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて11.1で前回調査時の△17.6から改善し、「好転」企業が「悪化」企業を上回っているが、「前年同期比」では△11.1で、「悪化」企業が「好転」企業を上回っている。押しなべて「横ばい」状態から、企業によって差が現れてきている。「3ヶ月後」の予想は16.7で、前回の△5.9より改善している。受注状況DIは、「3ヶ月前」比は0.0で前回の△41.2から改善し、「前年同期」比では△5.5と前回の△17.7より改善しているが、「悪化」が「好転」を上回っている。「3ヶ月後」の予想は22.2で前回の△11.7から改善し、「好転」予想が増えている。諏訪地方の平成27年6月の新設住宅着工戸数は84戸で、前年同月比19戸減少(△18.5%)した。平成27年4月～6月の累計着工戸数は318戸で、前年同期比33戸増加(11.6%)した。平成27年7月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は24件1,049百万円だった。また、市町村からの受注工事は合計79件、686百万円で、前年同月比5件、99百万円増加した。

雇用状況は、平成27年6月の諏訪地方の有効求人倍率が、前年同月を0.10ポイント上回り、前月を0.05ポイント上回る1.16倍となった。一昨年6月から25ヶ月連続で前年を上回っている。1倍台は昨年4月に回復して以来、15ヶ月連続となった。長野県は1.25倍、全国は1.19倍で、全国は23年3ヶ月ぶりの高水準を維持し、長野県は12ヶ月連続で全国平均を上回っている。諏訪地方は、新規求人数(全数)が1,555人で前年同月比151人増加(10.8%)し、新規求職者数は860人で前年同月比39人減少(△4.3%)している。産業別の前年同月比の新規求人数は、飲食店・宿泊業で44.9%、製造業で31.2%増加し、運輸業で14.3%減少した。求人要因別では「継続する人員不足」「創業・新分野展開」が増加し、「業務量増大」「欠員補充」が減少した。ただ、新規求人のうち、正社員の割合は34.7%で、引き続き低水準で推移している。1件10人以上の人員整理は1件18人だった。事業主都合による雇用保険資格喪失者は33人で、前年同月より15人減少し、前月より3人減少した。



業況判断DIの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社(211社)の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、「好転」企業が22.7%、「横這」企業が64.9%、「悪化」企業が12.3%で10.4と、前回調査時の7.8から2.6ポイント改善した。前回に比べて、製造業は、「好転」企業が22.5%から17.9%へ減少したが、「悪化」企業も15.9%から11.7%へ減少した。非製造業は「好転」企業が前回の26.2%から33.3%へ増加し、「悪化」企業は15.4%から13.6%へ減少した。

労働力の状況はパートを含む労働力DIが、前年同期に比べて製造業が10.3、非製造業は6.0と総体的に増加傾向が続いている。また、1人当たりの労働時間DIも商業で18.7、観光・サービス業で12.5となるなど、増加傾向となっている。特に小売業界などでは「パートやアルバイトの人が集まりにくい」とする声が出ている。

産業別業況表

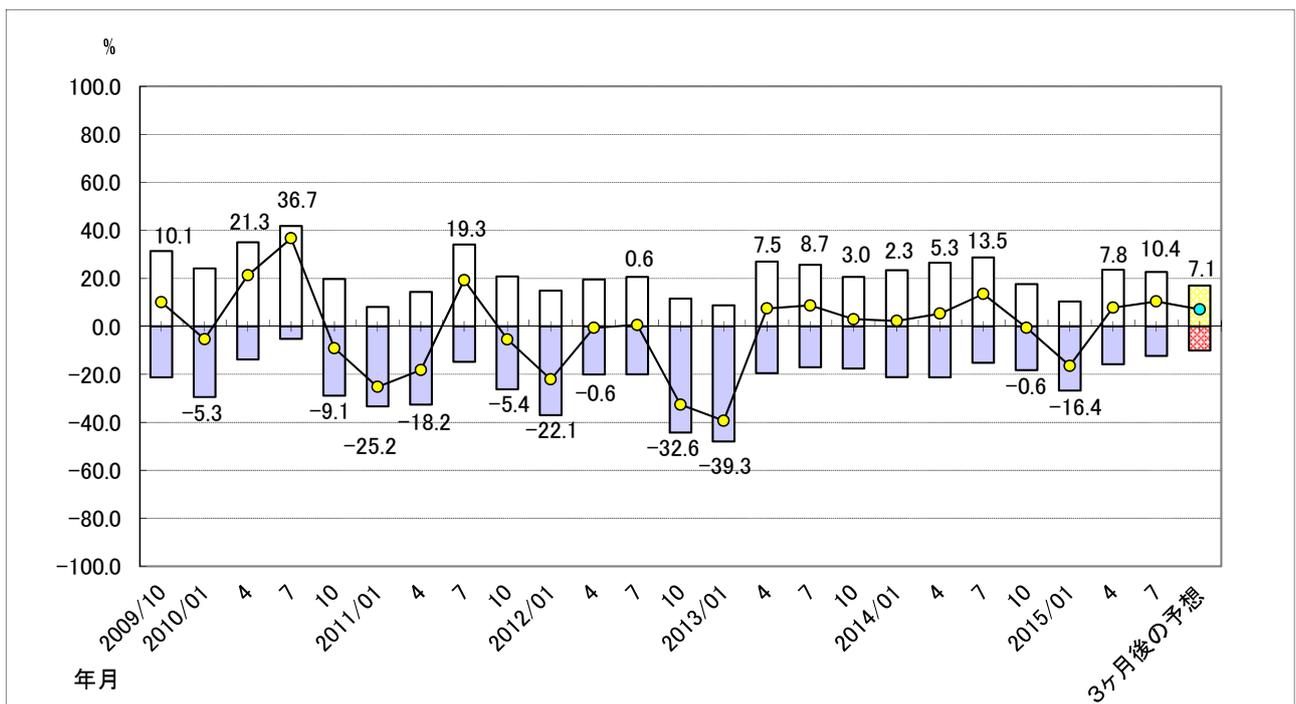
(企業数・%) 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	211	22.7	64.9	12.3	10.4	211	30.3	48.3	21.3	9.0	211	17.1	73.0	10.0	7.1
製造業	145	17.9	70.3	11.7	6.2	145	30.3	49.0	20.7	9.6	145	14.5	76.6	9.0	5.5
非製造業	66	33.3	53.0	13.6	19.7	66	30.3	47.0	22.7	7.6	66	22.7	65.2	12.1	10.6
商業	32	21.9	56.3	21.9	0.0	32	37.5	37.5	25.0	12.5	32	18.8	65.6	15.6	3.2
建設業	18	22.2	66.7	11.1	11.1	18	16.7	55.6	27.8	-11.1	18	16.7	83.3	0.0	16.7
観光・サービス	16	68.8	31.3	0.0	68.8	16	31.3	56.3	12.5	18.8	16	37.5	43.8	18.8	18.7

自社業況判断DIの推移

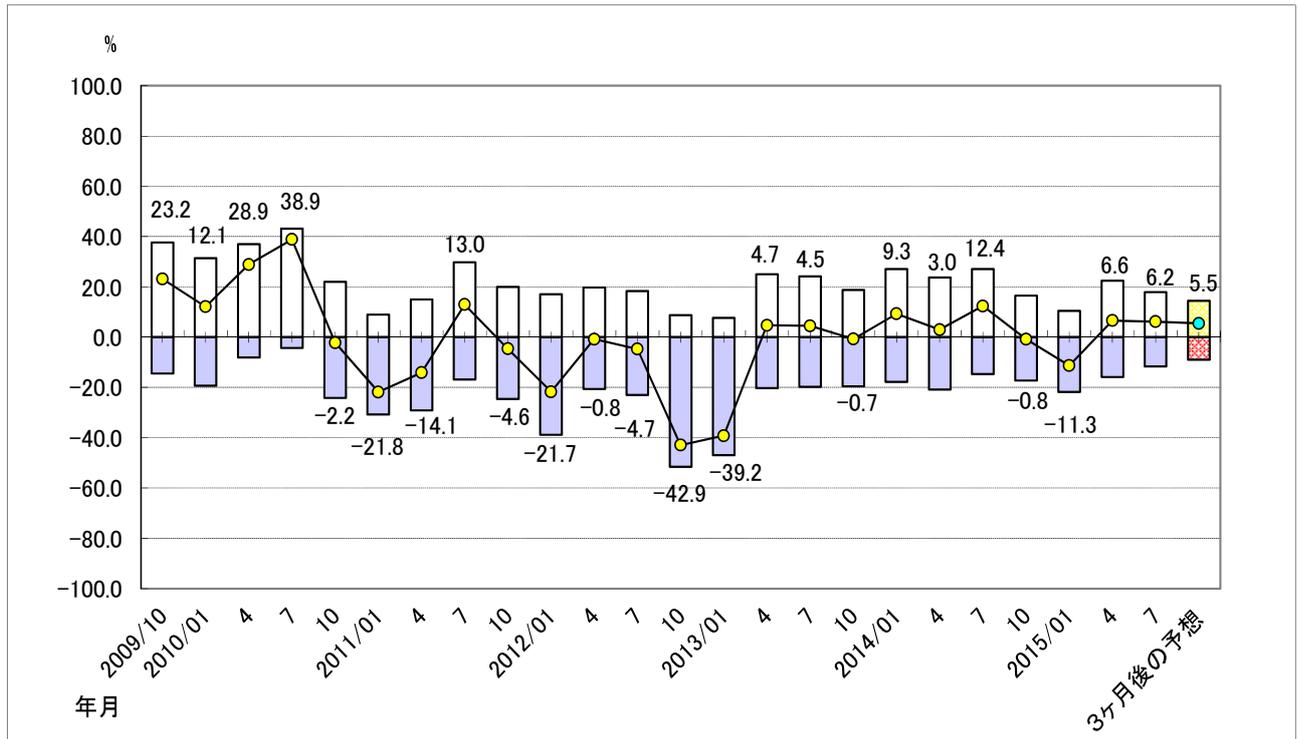
● 回答全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-1



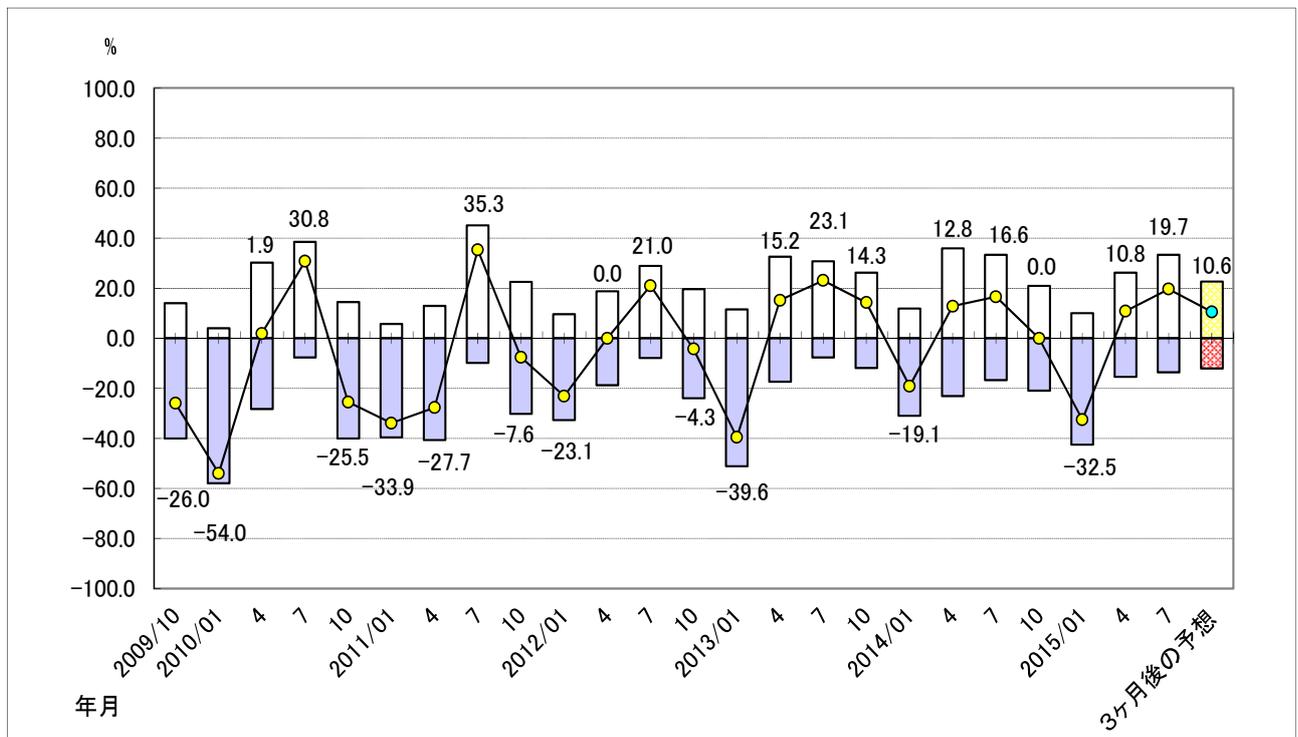
●製造業:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー2



●非製造業:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー3



産業別景気動向

1. 製造業

業況判断DIは、「3ヶ月前」比で6.2と、前回調査時の6.6から0.4ポイント悪化した。一方、「3ヶ月後」の予想は5.5で、前回の5.1から0.4ポイント改善し、前回とほぼ同様の動きとなっている。ただ、「前年同期」比は9.6で、前回の15.2から5.6ポイント悪化し、前年より悪化した企業がやや増加した。

受注状況DIは、「3ヶ月前」と比べて5.5と、前回の3.6から1.9ポイント改善した。「前年同期」比は「増加」企業が減少し、「悪化」企業が増え9.0で、前回の14.5から5.5ポイント悪化している。「3ヶ月後」の予想DIは「好転」「悪化」予想とも15.2%の企業があり0.0で、前回の1.5から悪化している。

収益性DIは、「3ヶ月前」比で△1.4と前回の△3.6から2.2ポイント改善したが、「前年同期」比では前回の△5.1から△6.9へ1.8ポイント悪化した。いずれも水面下で厳しい状況が続いている。「3ヶ月後」の予想は0.7で、前回の△5.0より5.7ポイント改善した。原材料の高止まりが収益を圧迫するという声は多く、費用負担は3ヶ月前比で29.0%、前年同期比で42.1%の企業が上昇している。3ヶ月後も15.2%の企業が上昇を予想している。

消費増税の影響は、「3ヶ月前」と比べて「多少」とする企業が54.5%（前回48.6%）、「多大」とする企業が5.5%（前回7.2%）ある。「なし」とする企業は40.0%だった。「3ヶ月後」の予想では「多少」が54.5%（前回53.6%）、「多大」が4.8%（前回3.6%）となっている。

業種別（主要5業種）の業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて「金属製品」が16.6（前回11.1）、「輸送用機械」は18.7（同△20.0）、「精密機械」が18.2（同0.0）と改善しているが、「電気機械」が△17.8（前回△3.4）、「一般機械」は14.6（同34.2）と悪化した。「前年同期」比では「輸送用機械」が△6.2（同△13.3）と改善したが、「精密機械」が36.4（同38.5）、「一般機械」は19.5（同36.8）、「金属製品」は11.1（同22.2）、「電気機械」が10.7（同17.2）と悪化した。前年より悪化している企業が多い。「3ヶ月後」の予想DIは、「輸送用機械」が18.7（同6.6）、「金属製品」は16.7（同5.6）、「精密機械」が9.1（同△7.7）、「一般機械」が2.4（同△2.6）と好転予想が上回り、「電気機械」は△3.6（同17.2）と悪化予想が上回っている。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
製造業	145	17.9	70.3	11.7	6.2	145	30.3	49.0	20.7	9.6	145	14.5	76.6	9.0	5.5	
規模	1～29人	80	15.0	72.5	12.5	2.5	80	22.5	60.0	17.5	5.0	80	8.8	80.0	11.3	-2.5
	30～99人	44	25.0	61.4	13.6	11.4	44	47.7	27.3	25.0	22.7	44	15.9	79.5	4.5	11.4
	100人～	21	14.3	81.0	4.8	9.5	21	23.8	52.4	23.8	0.0	21	33.3	57.1	9.5	23.8
分類	金属製品製造業	18	22.2	72.2	5.6	16.6	18	33.3	44.4	22.2	11.1	18	16.7	83.3	0.0	16.7
	一般機械器具製造業	41	24.4	65.9	9.8	14.6	41	36.6	46.3	17.1	19.5	41	12.2	78.0	9.8	2.4
	電気機械器具製造業	28	3.6	75.0	21.4	-17.8	28	32.1	46.4	21.4	10.7	28	10.7	75.0	14.3	-3.6
	輸送用機械器具製造業	16	25.0	68.8	6.3	18.7	16	18.8	56.3	25.0	-6.2	16	25.0	68.8	6.3	18.7
	精密機械器具製造業	11	18.2	81.8	0.0	18.2	11	36.4	63.6	0.0	36.4	11	18.2	72.7	9.1	9.1

① 諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

● 金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて16.6で、前回調査時の11.1から改善した。「前年同期」比は11.1で前回の22.2より悪化している。「3ヶ月後」の予想は16.7で前回の5.6から11.1ポイント改善している。技術力のある企業は創業以来最高の月額売上となる一方で、取引先企業の内製化や部品が共通化されて海外移転した影響を受ける企業もあり、まちまちな状況となっている。

● 一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など)

業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて14.6で、前回の34.2から19.6ポイント悪化した。増加した前回から横ばい状態の企業も多い。「前年同期」比では19.5(前回36.8)と悪化している。「3ヶ月後」の予想は2.4で前回の△2.6から改善している。設備投資に明るさがあり、部品加工業者が手一杯で、機械製造時に間に合わないケースがあったり、米国向けが安定し、金利引き上げを視野に入れた発注に追われている完成品輸出企業もある。一方で、台数はまとまるが、収益的には厳しいものが多いとする企業もある。

● 電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて△17.8と、前回の△3.4から悪化幅が広がった。「前年同期」比では10.7で、前回の17.2より悪化した。また、「3ヶ月後」の予想も△3.6で、前回の17.2より悪化した。技術力があり好調な企業もあるが、一服感があり、大手企業の業績改善の恩恵が下請け企業まで波及しないとする声もある。中国経済の減速も懸念材料となっている。

● 輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

業況判断DIは「3ヶ月前」と比べて18.7で、前回の△20.0から大幅改善した。「好転」企業が前回の6.7%から25.0%に増え、「悪化」企業が前回の26.7%から6.3%に減少した。「前年同期」比は△6.2で、前回の△13.3から改善した。「3ヶ月後」の予想も18.7で前回の6.6から改善している。総体的に自動車関連は動きの鈍さがあるが、大型車は比較的好調。重機や建機、搬送用機械などは安定している。

● 精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

業況判断DIは「3ヶ月前」と比べて18.2で、前回の0.0より改善した。81.8%の企業が横ばいとなっている。「前年同期」比は36.4で前回の38.5からやや悪化した。ただ、「3ヶ月後」の予想は、悪化予想の企業が前回の23.1%から9.1%に減り、9.1と前回の△7.7から改善した。レンズ関連は一部好調な企業の波及効果と、車載カメラ、監視カメラ部品などが堅調に推移している。

② 規模別業況

業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて「1~29人」規模は2.5で前回の△2.7から改善し、「30~99人」規模は11.4で前回の13.9よりやや悪化、「100人以上」規模も9.5で前回の25.0から悪化した。「前年同期」比は「1~29人」規模が5.0で前回の9.3から悪化し、「30~99人」規模が22.7で前回の21.0から改善し

た。「100人以上」規模は0.0で前回の25.0より悪化した。「3ヶ月後」の予想は、「1～29人」規模が△2.5で前回の2.7より悪化した。「30～99人」規模は11.4で前回の11.6とほぼ同率で、「100人以上」規模は23.8で前回の0.0より改善した。

③受注状況DI(規模別、業種別)

製造業全社の「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは、「増加」企業24.8%、「減少」企業19.3%で5.5と、前回調査時の3.6から改善している。「前年同期」比は前回の14.5から9.0へ悪化した。「3ヶ月後」の予想は「増加」「減少」とも15.2%の0.0で見通しが分かれ、前回の1.5から悪化している。

規模別の受注状況DIは、「3ヶ月前」と比べて「1～29人企業」は3.7で、前回の△6.7から改善した。「30～99人企業」は9.1で、前回の16.3から悪化し、「100人以上企業」も4.7で前回の15.0より悪化している。「前年同期」比では「1～29人企業」が3.7で前回の12.0から悪化し、「30～99人企業」も18.2で前回の20.9から悪化した。「100人以上企業」も9.5で前回の10.0よりやや悪化している。「3ヶ月後」の予想は「1～29人企業」が△10.0で前回の△4.0から悪化幅が広がり、「30～99人企業」は前回の7.0から6.8でほぼ横ばいだった。「100人以上企業」は23.8で前回の10.0から改善した。

業種別(主要5業種)の「3ヶ月前」比は、「精密機械」が前回の15.4から54.5、「輸送用機械」は△20.0から12.5へ改善した。「金属製品」は16.7から横ばいで、「一般機械」は前回の15.8から12.2、「電気機械」は前回の0.0から△28.6へ悪化した。「前年同期」比は「一般機械」が前回の31.5から19.5、「電気機械」は17.2から7.1、「精密機械」は61.5から36.4、「金属製品」は16.7から11.1と総体的に悪化傾向だが、「輸送用機械」は△20.0から6.3へ改善した。「3ヶ月後」の予想は「一般機械」が△12.2で前回の△21.0から改善し、「金属製品」も0.0から5.5、「輸送用機械」は6.6から18.8へ改善している。一方、「電気機械」は20.7から0.0、「精密機械」は23.1から9.1へ悪化している。

業種別・規模別受注状況表

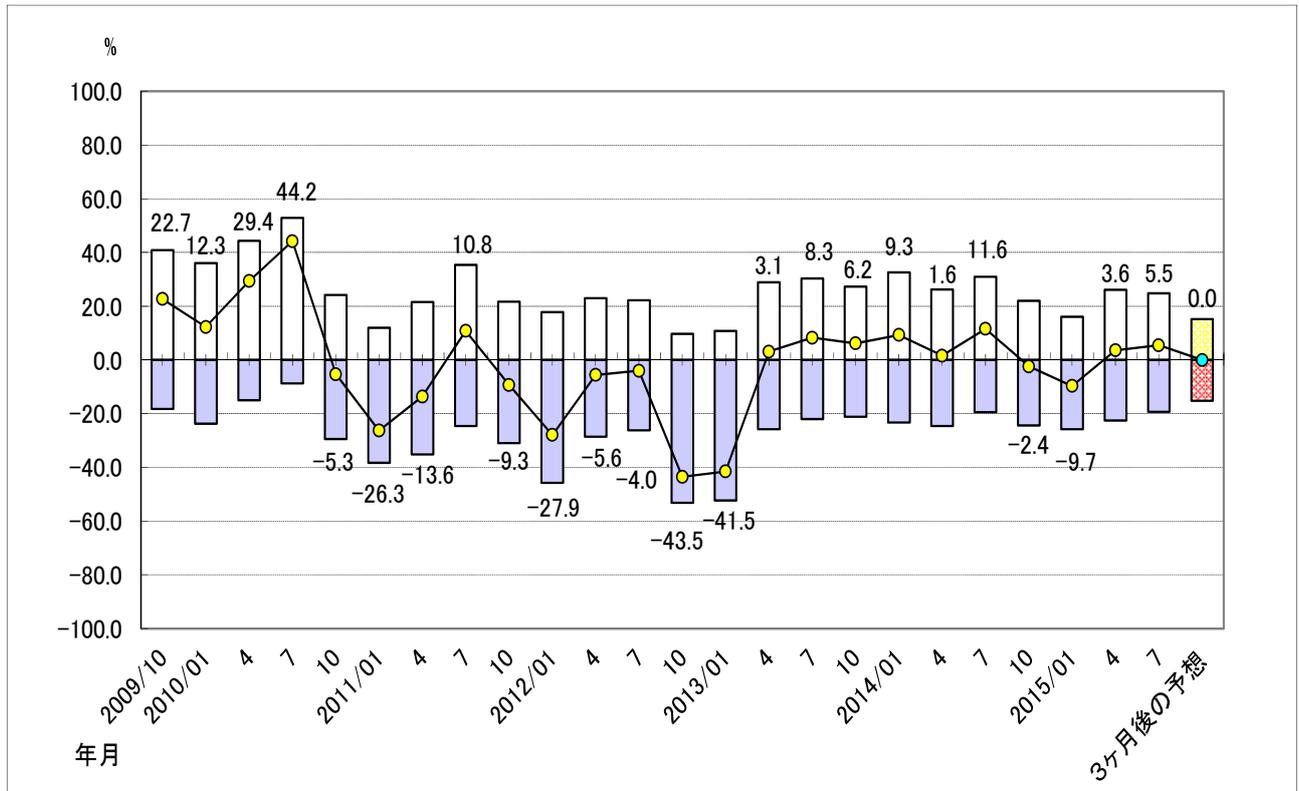
表-3

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	
製造業	145	24.8	55.9	19.3	5.5	145	33.8	41.4	24.8	9.0	145	15.2	69.7	15.2	0.0	
規模	1～29人	80	22.5	58.8	18.8	3.7	80	25.0	53.8	21.3	3.7	80	8.8	72.5	18.8	-10.0
	30～99人	44	31.8	45.5	22.7	9.1	44	50.0	18.2	31.8	18.2	44	15.9	75.0	9.1	6.8
	100人～	21	19.0	66.7	14.3	4.7	21	33.3	42.9	23.8	9.5	21	38.1	47.6	14.3	23.8
中分類	金属製品製造業	18	27.8	61.1	11.1	16.7	18	33.3	44.4	22.2	11.1	18	11.1	83.3	5.6	5.5
	一般機械器具製造業	41	26.8	58.5	14.6	12.2	41	41.5	36.6	22.0	19.5	41	12.2	63.4	24.4	-12.2
	電気機械器具製造業	28	7.1	57.1	35.7	-28.6	28	35.7	35.7	28.6	7.1	28	14.3	71.4	14.3	0.0
	輸送用機械器具製造業	16	31.3	50.0	18.8	12.5	16	31.3	43.8	25.0	6.3	16	31.3	56.3	12.5	18.8
	精密機械器具製造業	11	54.5	45.5	0.0	54.5	11	36.4	63.6	0.0	36.4	11	18.2	72.7	9.1	9.1

製造業の受注状況DIの推移

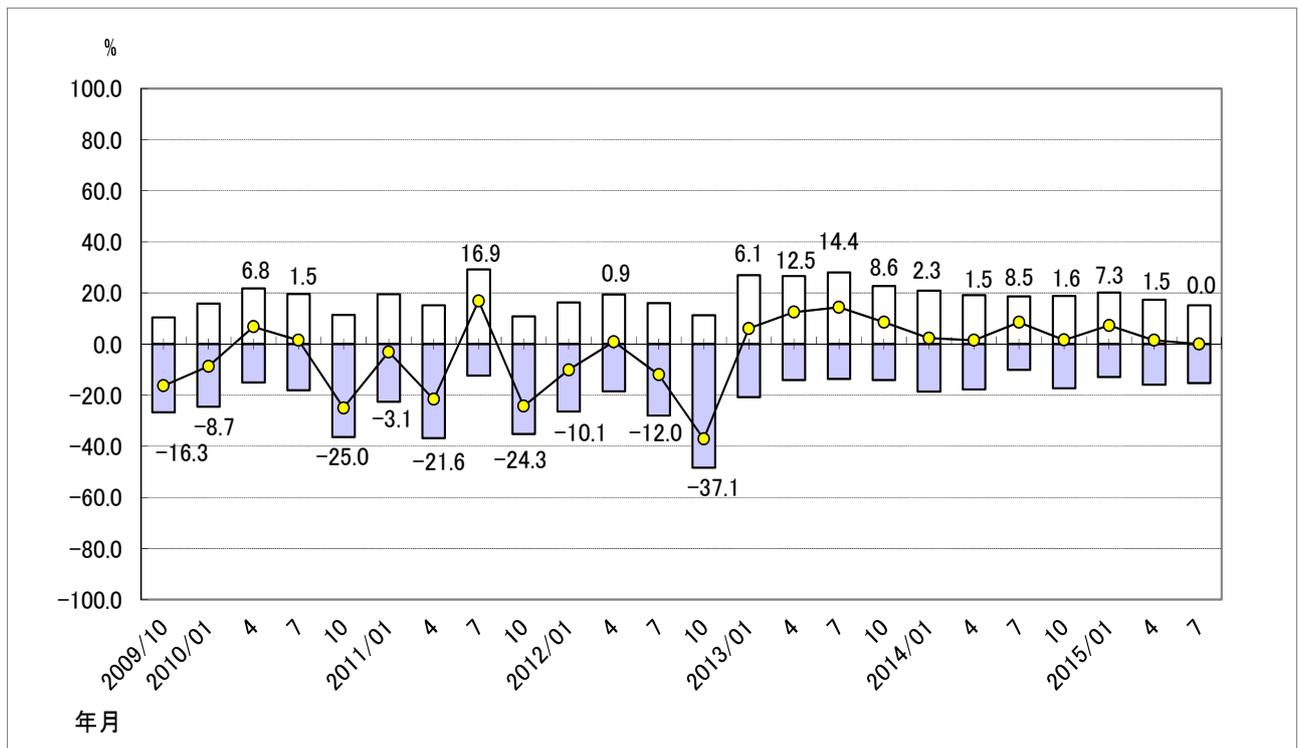
●製造業全社:「3ヶ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー4



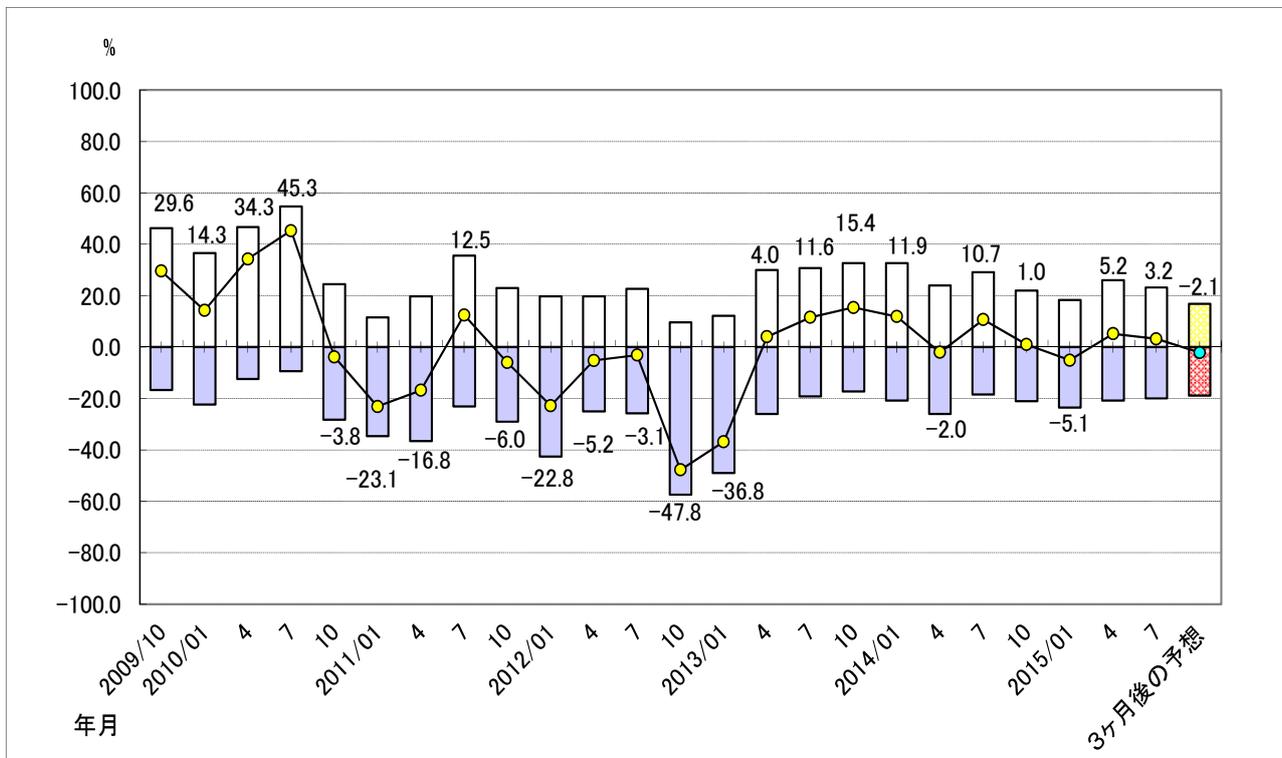
●製造業全社:「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー5



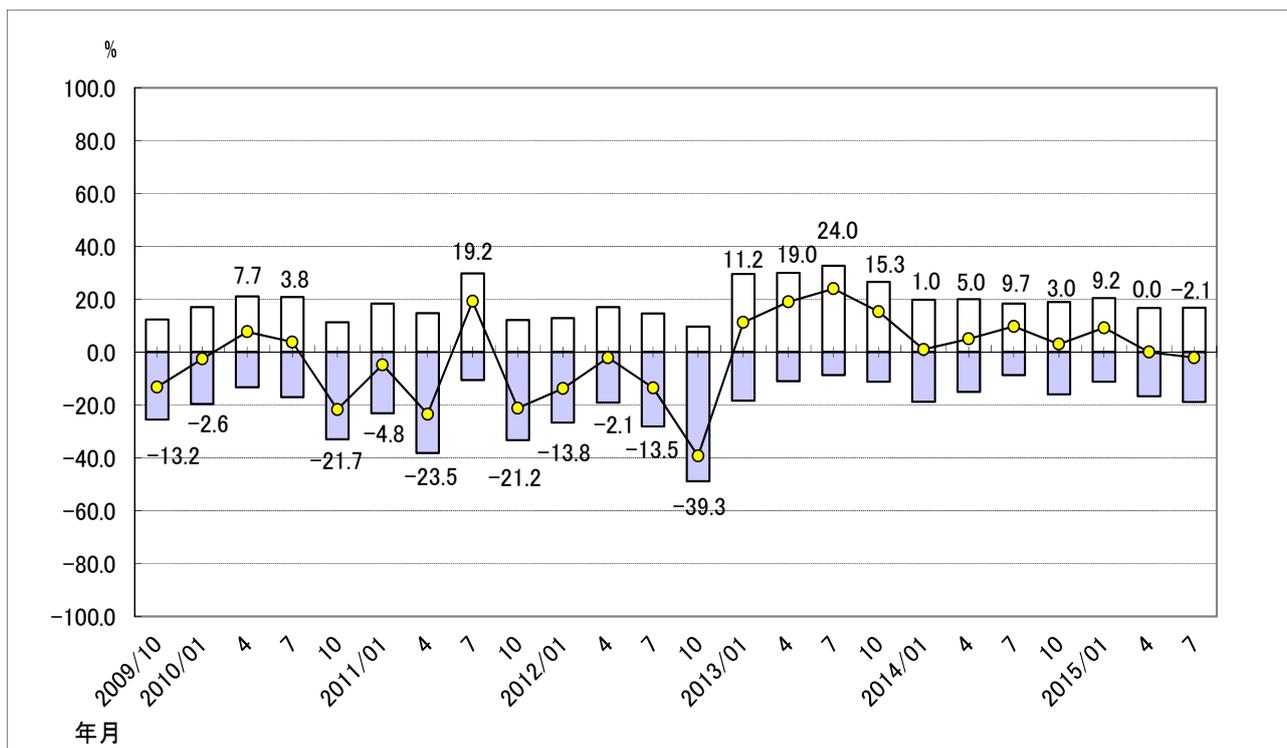
●製造業 主要5業種:「3ヶ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー6



●製造業 主要5業種:「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



2.商業・観光サービス業

①商業

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、前回の12.1から0.0と悪化したが、「前年同期比」では前回の6.1から12.5、「3ヶ月後」の予想も前回の0.0から3.2へ改善している。収益性DIは「前年同期」比で前回の3.0から28.1と大幅改善している。「3ヶ月前」比も前回の△3.0から0.0、「3ヶ月後」の予想も前回の△3.0から3.1へ改善している。消費増税の影響があった前年より改善傾向だが、影響が「多少」または「多大」と感じる企業は「3ヶ月前比」と「前年同期比」で46.9%、「3ヶ月後予想」でも43.8%と根強い。

- 食料品 好天に恵まれ、ビールや飲料、アイスクリームなどの売れ行きが良く、品薄となる日が多い店舗もあった。果物は例年より1週間ほど早くピークを迎えた。
- 衣料品 月後半からの猛暑の影響で、夏用礼服の売れ行きが例年より伸びた。夏の成人式や就活向けのスーツ類の動きもあった。
- 自動車 長野県内の7月の新車新規登録・届出台数は登録車が5,241台となり、前年同月比で4ヶ月ぶりに減少した。軽自動車は3,589台で7ヶ月連続減少した。
- 家電店 猛暑の影響で梅雨明けから、エアコンや冷蔵庫などが好調な売れ行きとなった。
- ホームセンター 熱中症対策用品の保冷剤や汗拭きタオル類などが好調だった。

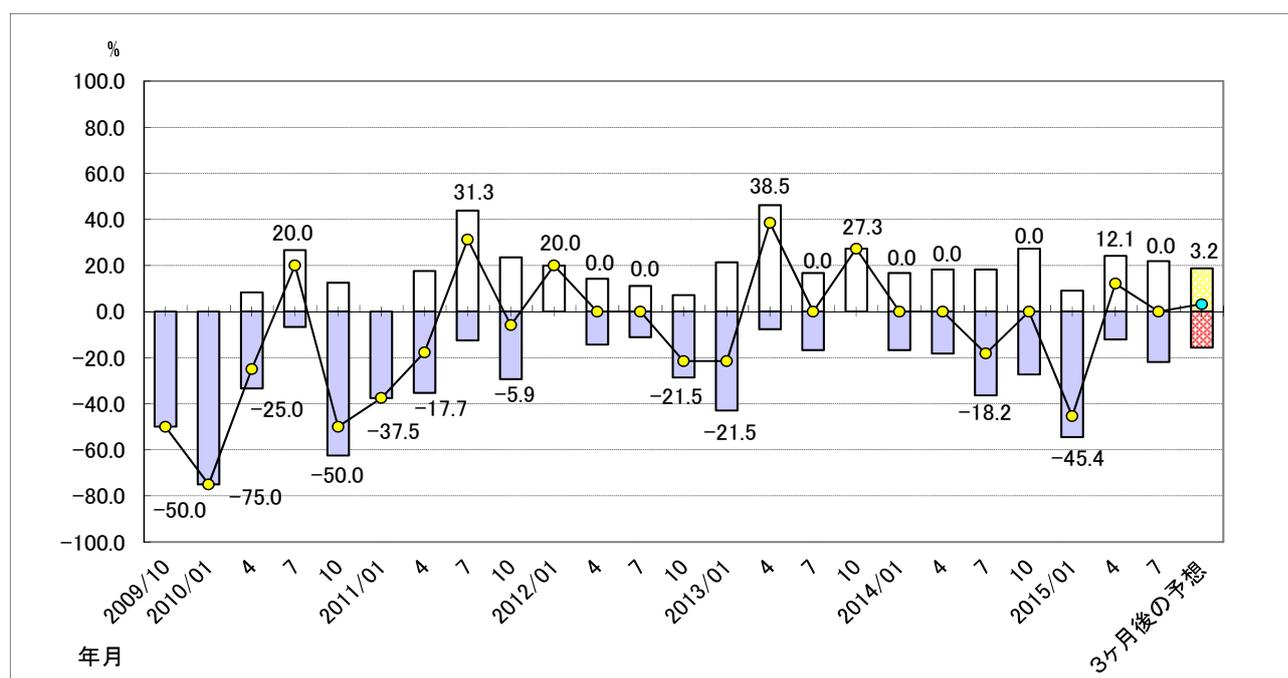
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	32	21.9	56.3	21.9	0.0	32	37.5	37.5	25.0	12.5	32	18.8	65.6	15.6	3.2
客単価	32	21.9	59.4	18.8	3.1	32	31.3	53.1	15.6	15.7	32	9.4	75.0	15.6	-6.2
来店客数	32	25.8	51.6	22.6	3.2	32	28.1	40.6	31.3	-3.2	32	25.0	53.1	21.9	3.1

●商業全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-8



②観光・サービス業

本格的な観光シーズンとなり、「前年同期」比の業況判断DIは18.8で、前回調査時の△6.7から改善した。客単価DIは前回の6.6から12.5へ改善し、宿泊客数DIも6.7から25.0へ改善している。「3ヶ月後」の業況予想DIは18.7で前回の40.0から悪化した。材料などの費用負担が上昇した企業は「3ヶ月前」比で68.8%、前年同期比が75.0%で、「3ヶ月後」も43.8%が上昇を予想している。消費増税の影響は、「3ヶ月前」比で68.8%（前回73.4%）、「3ヶ月後」の予想では75.0%（前回60.0%）の企業が何らかの影響を感じている。

- 上諏訪温泉 7月の宿泊客数は前年同月比80%～130%台で、天候が良かったことなどで多くの施設が前年を上回った。インバウンドも前年同月を上回る状況が続き、依然、台湾を中心とした予約が好調。ただ、団体客数が減少した施設もあった。
- 蓼科・白樺湖・車山方面ほか 土日が好天に恵まれ、夏山登山のピークとともに、後半は猛暑の影響もあって涼を求める県内外からの観光客の入り込みが好調だった。ガソリン価格が、原油高だった前年同期比で約30円安く、遠出を後押しした面もある。夏休みに入って合宿も好調だった。富士見方面も個人客を中心に、おおむね順調に推移した。
- 諏訪大社 上社・下社合わせた7月の参拝者数は約45千人と、前年同月比約600人の減少（△1.3%）となった。

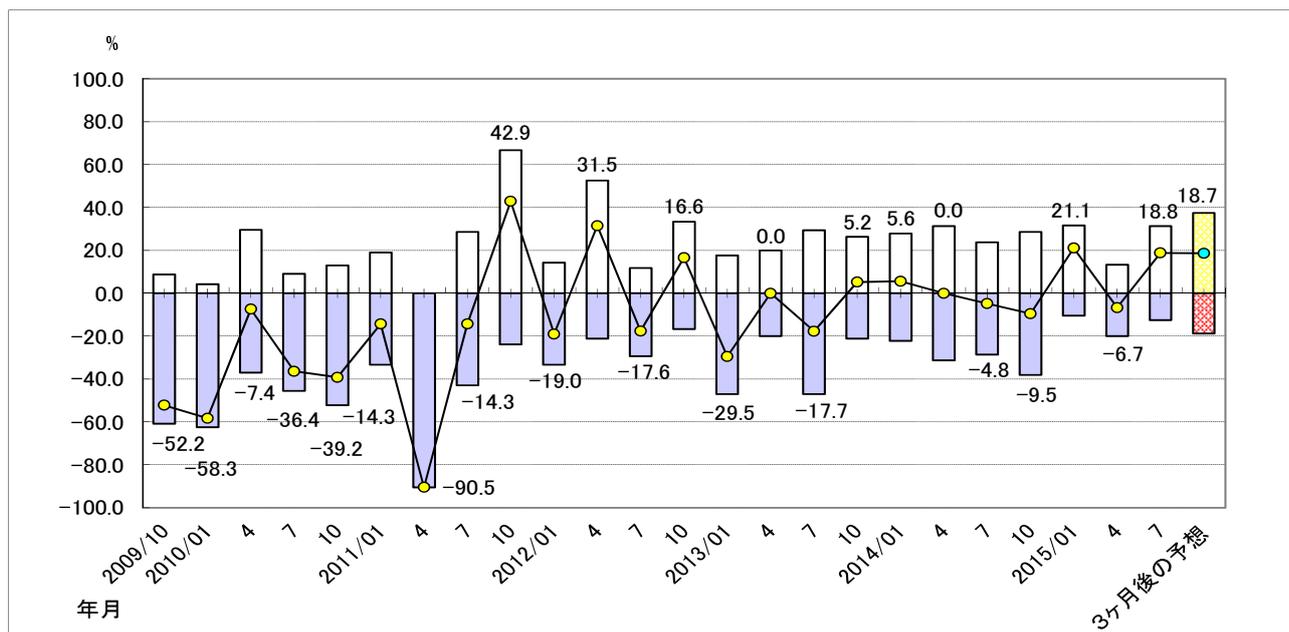
業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	16	68.8	31.3	0.0	68.8	16	31.3	56.3	12.5	18.8	16	37.5	43.8	18.8	18.7
客単価	16	50.0	43.8	6.3	43.7	16	18.8	75.0	6.3	12.5	16	18.8	56.3	25.0	-6.2
宿泊客数	16	56.3	37.5	6.3	50.0	16	43.8	37.5	18.8	25.0	16	25.0	43.8	31.3	-6.3

●観光・サービス業全社:「前年同期」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-9



3.建設業

業況判断DIは、「3ヶ月前」比で11.1と前回調査時の△17.6から改善した。「前年同期」比は△11.1で前回の△11.7とほぼ同様に推移している。受注状況DIは「3ヶ月前」比で0.0となり、前回の△41.2から改善している。収益性DIの「3ヶ月前」比も0.0で前回の△35.3から改善した。「3ヶ月後」の業況予想は16.7で、前回の△5.9から改善している。ただ、企業によって受注状況などに格差も見られる。

●建築工事

諏訪地方の平成27年6月の各市町村の新設住宅着工戸数は岡谷市14戸、諏訪市6戸、茅野市47戸、諏訪郡17戸の合計84戸だった。持家は前年同月比で18戸増加したが、貸家が34戸減少している。長野県全体の6月の新設住宅着工戸数は1,077戸で、前年同月比11.0%増加した。

●公共工事

平成27年7月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は、諏訪建設事務所12件321百万円、林務課1件14百万円、農地整備課3件53百万円、国関係4件556百万円、その他3件104百万円、県警察1件1百万円だった。市町村からの受注工事は前年同月比で件数は5件増加し、契約金額では下諏訪町の小中学校吊り天井等落下防止対策工事などがあり、99百万円増加(16.9%)した。

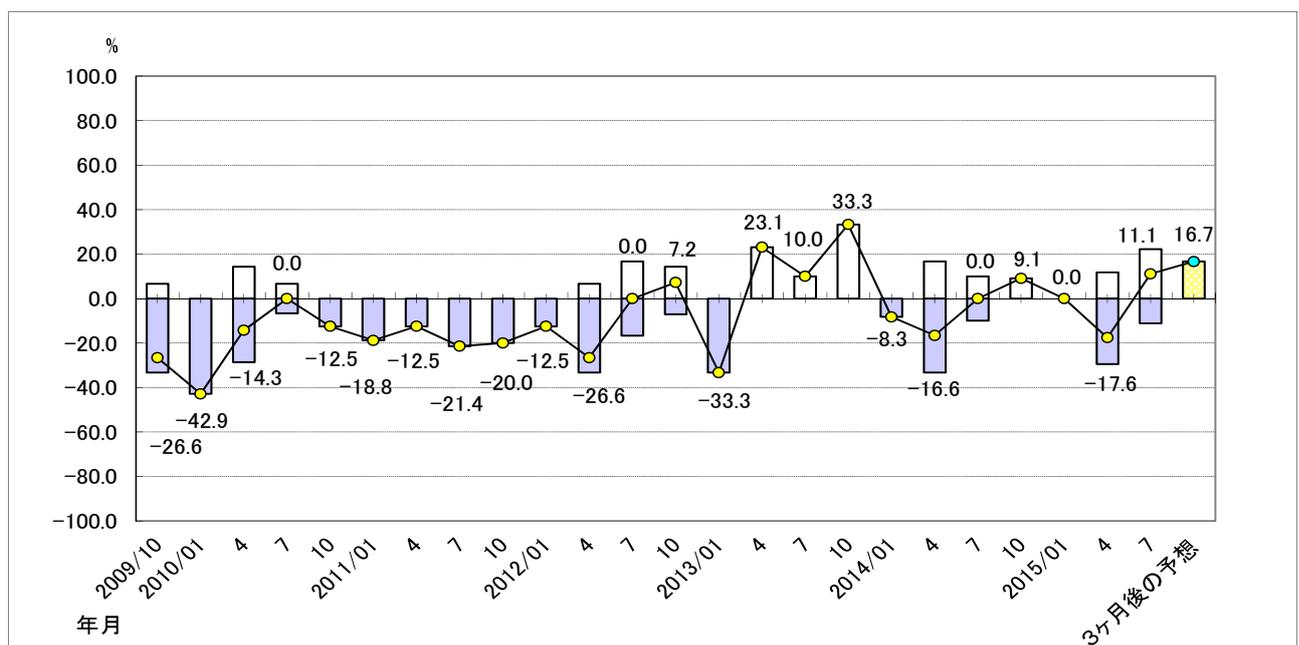
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	18	22.2	66.7	11.1	11.1	18	16.7	55.6	27.8	-11.1	18	16.7	83.3	0.0	16.7
受注状況	18	22.2	55.6	22.2	0.0	18	27.8	38.9	33.3	-5.5	18	22.2	77.8	0.0	22.2
外注発注量	18	22.2	50.0	27.8	-5.6	18	22.2	33.3	44.4	-22.2	18	22.2	66.7	11.1	11.1

●建設業全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-10



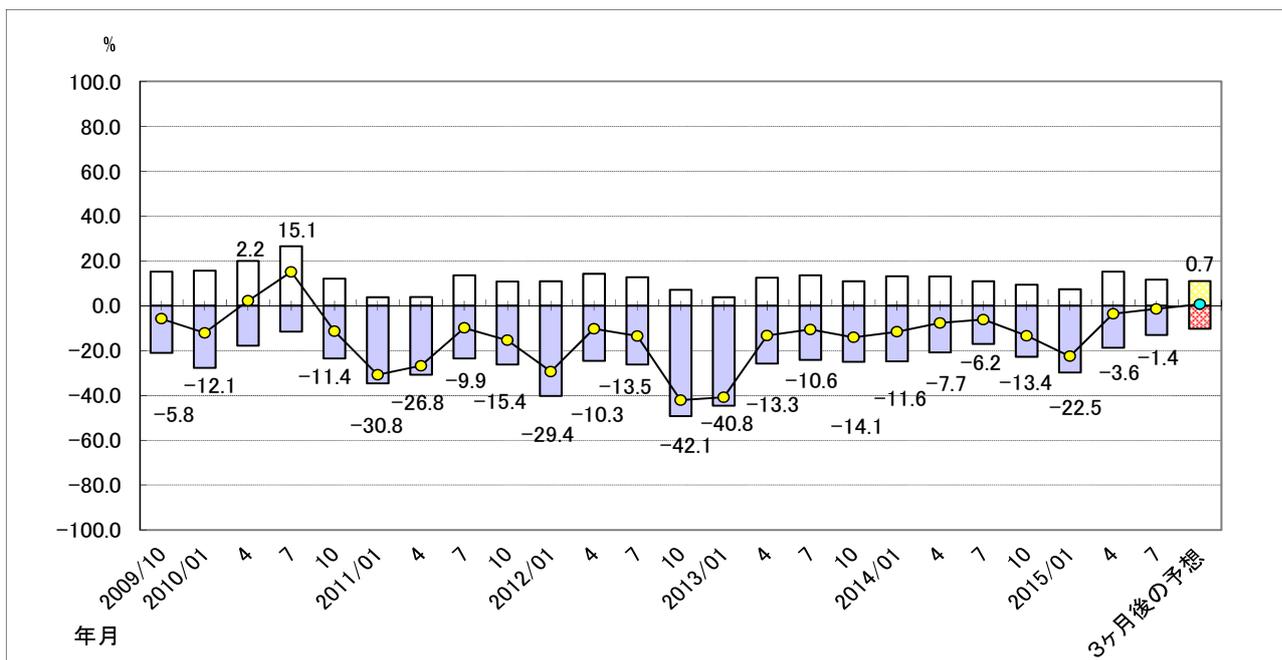
4.収益性状況

回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性は「好転」企業 14.2%、「悪化」企業 12.3%で、同DIは 1.9 と前回調査時の△2.5 から改善したが、横ばい状態の企業が多い。「前年同期」比も△1.4 で、前回の△3.9 から 2.5 ポイント改善した。「3ヶ月前」と比べた製造業は水面下ながら△1.4 で前回の△3.6 から 2.2 ポイント改善し、非製造業は 9.1 で前回の 0.0 から改善している。ただ、原材料の高騰による収益圧迫の声は依然多く、製造業ではコストダウン要請も見られる。

「3ヶ月後」の予想DIは、製造業が 0.7 で前回の△5.0 から 5.7 ポイント改善し、非製造業は 4.6 で前回の 3.1 より改善している。回答全社では 1.9 で、前回の△2.5 から、わずかながら改善している。

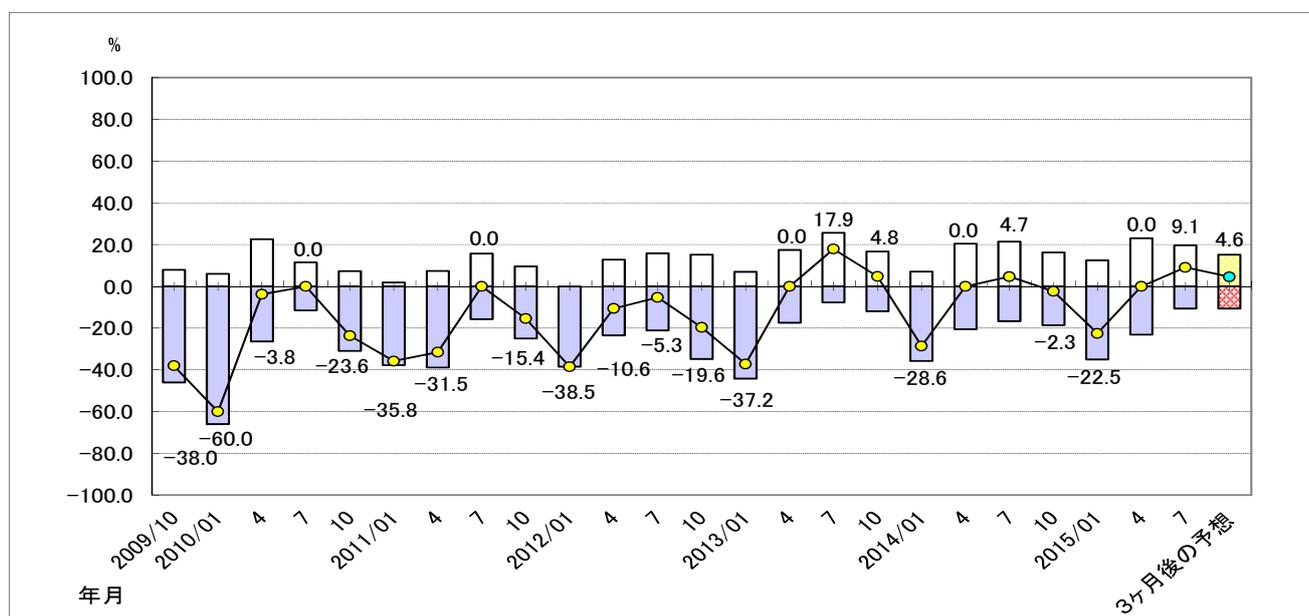
●製造業：3ヶ月前と比べた収益性DI

グラフー11



●非製造業：3ヶ月前と比べた収益性DI

グラフー12



5.経営上の課題

経営上の課題として①製造業は、売上減少と労働力確保②商業は労働力確保と売り上げ減少、競争激化③建設業は、労働力確保と売上減少④観光・サービス業は、人件費と労働力確保となっている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	84	60	13	7	4
単価引下げ	37	29	5	2	1
競争激化	58	38	13	5	2
資金繰り	46	29	7	4	6
人件費	41	22	6	6	7
労働力確保	71	41	14	9	7

6.諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比
有効求人倍率【6月】	ハローワーク諏訪	1.16倍	0.10ポイント
手形交換高【7月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	5,898枚	△386枚
	金額	7,780百万円	349百万円
	うち不渡り発生状況	枚数	0枚
	金額	0千円	0千円
電力使用量【7月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	37,395 MWh	△0.5%
	高压電力計	93,728 MWh	△1.8%
	合計	131,123 MWh	△1.4%
車庫証明取扱件数【7月】(諏訪地方合計)		991件	3.7%
新設住宅着工戸数【H27.4~6月】(諏訪管内)		318戸	11.6%

7.調査概要

DI調査:業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

- ① 調査期間 平成27年7月末。
- ② 調査内容 「平成27年7月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想。
- ③ 調査方法 アンケート調査(回答数 下記⑦)及びヒアリング調査(約130社)。
- ④ 対象地域 諏訪地域全域。
- ⑤ 業種 製造業、商業、建設業、観光・サービス業。
- ⑥ 回答企業数 211企業。
- ⑦ 回答率 84.4%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	170	40	20	20	250
回答数	145	32	18	16	211